

使用前点検

1. 電池残量が十分であることを確認してください。
2. ガス採集チューブおよびフィルタ管に、折れや穴が開いていないことを確認してください。
3. ガス採集棒内フィルタおよびフィルタ管の、汚れ具合や目詰まりがないことを確認してください。
4. 本体+①中継チューブ+②フィルタ管+③ガス採集チューブ+④ガス採集棒の順で、接続が正しく行われていることを確認してください。



使用方法

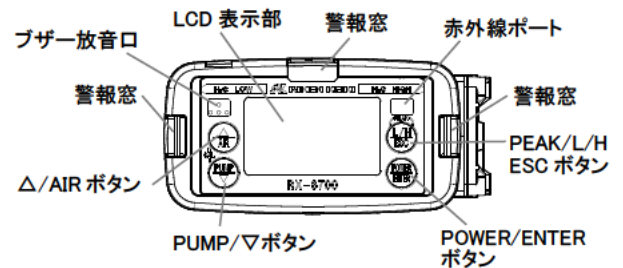
1. 電源の入れ方

POWER/ENTER ボタンをブザーが“ピッ”と鳴るまで (3 秒以上) を押し続けると電源が入ります。

「Filter Probe」と表示されたらフィルタ管が接続されていることを確認し **ENTER** ボタンを押してください。ブザー音が“ピッピッ”と 2 回鳴った後、測定画面が表示されます。

起動時は H₂S[高濃度]測定モードで起動します。

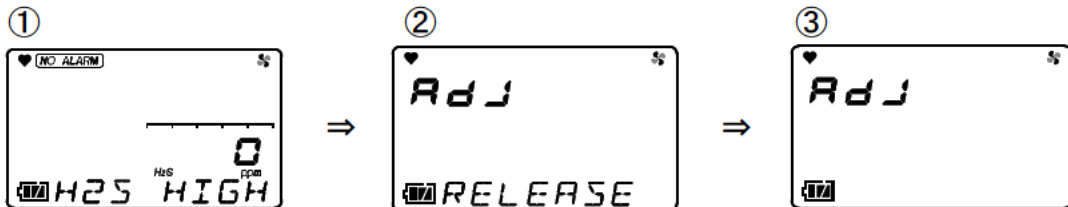
【各部の名称】



2. エア校正の仕方

エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。

【エア校正手順画面】



測定画面で **AIR** ボタンを押し続けます。

上の画面が表示されたら **AIR** ボタンから指を離します。

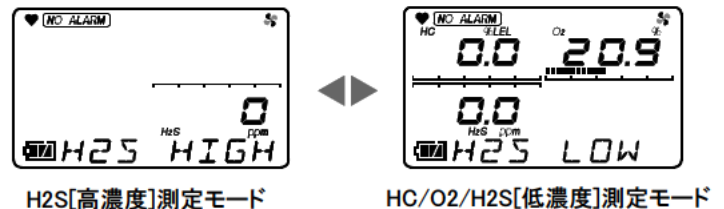
エア校正が終わると上の画面が表示されます。

3. 硫化水素測定モードのレンジの切り替え方

H₂S[高濃度]測定モードと HC/O₂/H₂S[低濃度]測定モードを切り替えて使用します。

L/H ボタンを長押し(約1秒間)してブザー音が“ピッ”と1回鳴ったら指を離します。

測定モードを切り替える場合は、センサ故障の原因となりますので予め H₂S[高濃度]測定モードで硫化水素濃度が 100ppm 未満であることを確認してください。



4. 測定の仕方

測定画面の状態でご測定します。ガス採集棒を測定場所に近づけて下さい。ガス濃度の測定を開始すると、一定時間測定ガスを吸引し、測定結果の濃度値を表示します。

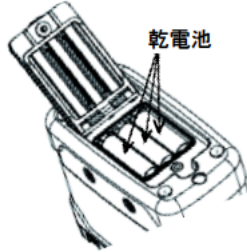
5. 電源の切り方

ブザー音が“ピッピッピッ”と3回鳴り、LCD表示が消えるまで **POWER/ENTER** ボタンを押し続けます。

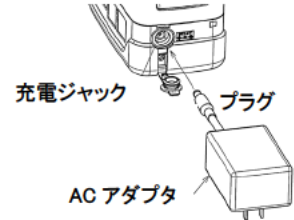
使用方法

6.電池交換/充電方法

[乾電池ユニットの場合]
マイナスドライバ等で本体底面の電池カバーを開けて新品の乾電池 3 本と交換してください。



[Li-ion 電池ユニットの場合]
電池ユニット側面にある充電ジャックに AC アダプタのプラグを差し込み、充電を行ってください。



危険

乾電池ユニットの交換および乾電池の交換、Li-ion 電池ユニットの充電は、安全な場所で行ってください。

トラブルシューティング

症状	原因	処置
電源が入らない	電池が極端に消耗している	①乾電池ユニットの場合:安全な場所で3本とも新品の乾電池に交換してください。 ②Li-ion 電池ユニットの場合:安全な場所で電池ユニットの充電を行ってください。
	電池ユニットの実装不良	電池ユニットが正しく本体に装着されているか確認してください。
異常な動作をする	突発的なサージノイズ等による影響	電源を OFF にし、再起動を行ってください。
操作ができない	突発的なサージノイズ等による影響	安全な場所で、一旦電池ユニットを外してから再度電池ユニットを取り付け、電源を入れて操作してください。
システム異常 『FAIL SYSTEM』	本体回路に異常がある	販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼ください。
センサ異常 『FAIL SENSOR』	センサが故障している	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。(電源投入時『FAIL』と表示された場合は『ESC』ボタンを押すと解除できます。故障していないセンサを除き、その他のガスについては使用できます。)
電池電圧低下警報が表示されている 『FAIL BATTERY』	電池残量がなくなっている	①乾電池ユニットの場合:電源を切り、安全な場所で新品の乾電池に交換してください。 ②Li-ion 電池ユニットの場合:電源を切り、安全な場所で充電を行ってください。
流量低下警報が表示されている 『FAIL LOW FLOW』	水、油等を吸いこんでいる	ガス採集チューブに損傷や水、油等の吸い込み跡がないか、確認してください。
	ガス採集チューブが詰まっている	ガス採集チューブの接続状態及び詰まりやねじれ等を確認してください。
	ポンプが劣化している	販売店または最寄りの弊社営業所までポンプ交換をご依頼ください。
エア校正ができない 『FAIL AIR CAL』	本器の周囲に新鮮な大気を供給していない	新鮮な大気を正しく吸引し、再度エア校正を行ってください。
指示値が上がった(下がった)まま元にもどらない	センサのドリフト	エア校正を行ってください。
	干渉ガスの存在	溶剤等の干渉ガスの有無を確認し、適切に処置してください。
	スローリーク	測定対象ガスが微量に漏れている可能性があります(スローリーク)。放置しておく危険な状態になる可能性があるため、ガス警報時の対応と同等の対応と処置を施してください。
	環境の変化	エア校正を行ってください。特に、酸素センサは気圧の影響を受けます。

起こりえる不具合の原因究明の手助けとなるものを簡単に示しています。
ここに記載のない症状や、対策を行っても復旧しない場合は販売店又は最寄りの営業所にご連絡願います。

機器の性能を維持するため **1年に1回以上の頻度で点検を実施してください。**

注記：詳細は取扱説明書をご参照願います。